

平成29年度第1回北海道立帯広美術館協議会議事録

- 1 日 時 平成29年10月6日(金) 13時30分から16時20分まで
- 2 会 場 北海道立帯広美術館 講堂
- 3 出席委員 笹原 博(副会長)、東海林弘哉、吉田真弓(会長)、大河原茂美、原田純子、
天井千里、山本健一、澤村 寛、坂本陽子、加納靖宏 (計10名)
(※ 欠席2名、武田光史、宮澤 道)
- 4 事務局 館長 石堂普之、副館長 千田弘行、学芸課長 光岡幸治、
総務課主査 樋口周子、主任学芸員 藺部容子、学芸員 野田佳奈子
- 5 傍聴者 なし
- 6 議 事

議事に入る前に、館長挨拶、委員及び美術館職員紹介、展覧会鑑賞を行った後、会長及び副会長を選出し、会長の議事進行により議事に入る。

- (1) 帯広美術館の概要について
- (2) 平成28年度事業の実施状況について
- (3) 平成29年度事業の運営計画について
- (4) その他
 - ① アートギャラリー北海道について
 - ② 美術館評価システムについて
- (5) 協議・意見交換

7 会議記録

- (1) 開会挨拶(石堂館長)
- (2) 議事(議長：吉田会長)

議長：それでは議題に入ります。最初に事務局から美術館の概要について説明します。

事務局説明：(資料に基づき説明)

<帯広美術館の概要>

沿革、施設、組織、運営の重点、作品収集状況、入館者数の状況、予算の状況

議長：引き続き、平成28年度事業実施状況、平成29年度事業実施計画、平成30年度展覧会事業(特別展)方針について事務局から説明します。

事務局説明：(プロジェクター及び資料により事業概要等説明)

<平成28年度事業実施状況>

展覧会及び関連教育普及事業実施状況

<平成29年度事業運営計画>

展覧会及び関連教育普及事業実施計画

<平成30年度展覧会事業（特別展）方針>

平成30年度の特別展開催の方針・方向性

議長：それではこれまでの説明の内容について、質疑を受けます。

（特になし）

議長：引き続き、その他として、アートギャラリー北海道と美術館評価システムについて、事務局から説明があります。

事務局説明：（資料に基づき説明）

<アートギャラリー北海道の説明>

事業の目的、連携の概要、具体的な取組事例、今後の展開方針等

<美術館評価システムの説明>

道立美術館評価実施要綱に基づく評価の目的、評価の方法、評価結果の公表等

議長：それでは、協議・意見交換に入ります。今までの説明についての質疑のほか、意見など伺います。

委員：美術館評価におけるアンケートについて、回答が小学生と考えると少し難しいのでは。

事務局：こちらのアンケートについては、道立美術館評価実施要綱に基づくものであり、初年度ということもあることから、質問内容について、今後、北海道教員委員会担当課と協議して参ります。

委員：アンケートの内容については、もう少し砕いた内容にした方が良いと思います。

また、展覧会アンケートの「館内の環境等」の中でボランティアの活動にかかわる項目がありますが、評価をとらえる意味でわかりやすい質問内容にした方が良いと思います。

事務局：先ほどのお話と合わせて北海道教員委員会担当課と協議して参ります。

委員：アートギャラリー北海道について、これから具現化されていくと思いますが、例えば、全道にある作品を集めて、道内で展開していくということが考えられます。そのような予算はありますか。

事務局：各道立美術館に圏域を設けていますが、それぞれの圏域内の公私立美術館等と連携することを基本としているところです。その場合、圏域内の美術作品の輸送でも相応の経費がかかります。道立美術館単独で集めるよりも、複数の美術館でまとめると1館あたりの経費は多少安くなると思われませんが、連携館とどのように展開していくかによって変わりますので、現時点では具体的に予算が確保されている状況ではありません。

30年度の実施においては、道が推進する施策であり、実施の初年度でもあることから、アートギャラリー北海道における経費は、道側が負担していくことを想定しています。

委員：各道立美術館で年に数回開催している展覧会のうち、1回は全館で共通した企画あるいはテーマで展覧会を行うことができないでしょうか。

例えば、「アイヌ美術」を全館で取り上げ、1箇所はアイヌ絵を、別などころではアイヌ工

芸を中心にした展覧会といった感じで、トータルで道として「アイヌ美術」の展覧会を作り上げるようなことも考えてみてはどうでしょうか。

30年度も帯広美術館では、北海道150年事業として松浦武四郎展を予定していますが、それと前後して、他の美術館でも北海道150年事業に伴う展覧会を開催することで、トータルで道としての北海道150年事業像が見えてきます。

北海道150年事業には間に合わないと思いますが、帯広美術館や神田日勝記念美術館の周年事業に合わせるなど、そのような機会に2館で意思疎通を図り、共通したテーマで展覧会全体を作り上げることで、盛り上げることもできるのではないのでしょうか。

事務局：是非、そういったことを目指して行きたいと思います。

北海道150年事業については、道の共通した取り組みとしているところですが、展覧会として道立美術館全体で共通テーマで行うということは聞いていません。

北海道150年事業を記念した取り組みを各部局で行うこととして、それを取りまとめて北海道150年事業全体の動きや内容がわかるものを用意したいと聞いています。

委員：2020年にアイヌ民族博物館が国立アイヌ民族博物館・国立民族共生公園に変わりますが、それを記念して、アイヌ美術について道立美術館で役割分担をして展覧会を計画してはどうでしょうか。

事務局：とても貴重なご意見です。今後の参考にさせていただきます。

議長：アートギャラリー北海道の連携先として、美術館だけでなく博物館も入りますか。

事務局：博物館や郷土資料館なども想定しています。

議長：その他、意見等はありませんか。なければ、事務局の方から何かありますか。

事務局：特にありません。

議長：これにて終了します。

(議事終了)